



学芸員が選ぶ

今月の★イッピン★

エミール・オルリク《日本の子供たち》 1900年 木版、紙 宮城県美術館蔵

この作品の作者、エミール・オルリク(1870-1932)をご存じの方は多くないでしょう。オルリクはプラハに生まれた版画家です。ジャポニスムの風潮のなかで日本に興味を抱き、彫師と摺師を用いた浮世絵版画の技法を学ぶため、1900年に日本を訪れました。

みずみずしい多色摺で描かれたこの作品は、オルリクが日本に滞在しているときに修得した技法を用いて制作されました。しっかりものの姉さんか、あるいは子守奉公でしょうか。赤ん坊の面倒を見る少女たちは、明治時代に来日した外国人がしばしば描いた題材。西洋人にはおんぶが珍しく、また子どもが子どもの世話をする姿も目新しく、ほほ笑ましかったようです。



西山学芸員

「ミュシャと日本、日本とオルリク展」にて展示中(～10月20日)。ご覧ください!

日本でも今は見られなくなった120年ほど前の光景が、外国人の手で、しかも日本の技法で残された点も、この作品の見どころです。

閩市美術館 ☎221-2311 ☎221-2316

動物公園日誌

日直 クロ

(クロミミマーモセット)



ぼくは、クロミミマーモセットのクロ。今、子育てでとーってもいそがしいんだ!去年出会ったおくさんとの間に今年の1月と6月に子どもが生まれて、家族が5人になって毎日ドタバタだよ～。

ぼくたちは、家族みんなで協力し合って子育てしているよ。ふだんはぼくかおくさんが子どもをおんぶしているんだけど、ときどき上の子がぼくたちのマネをして下の子をおんぶするお手伝いをしてくれるんだ。上手にはできてないけど、そんな姿がほほえましくて、つかれもふっ飛んじゃうよ～(泣) 子どもたちは、だいたい1カ月半ごろから親のものを少しずつはなれて遊びに行くようになるんだけど、びっくりするとぼくの背中まっしぐらに向かってきて、しがみつくながらとってもかわいいんだよ～❤️



末っ子のかわいいキョトン顔をおひろめしちゃうよ～!

あと、キョトンとした顔で首をかしげるところもね。

ぼくたち家族は、動物科学館の2階で仲良く暮らしてるから、まだまだあまえんぼうな子どもたちにいやされに来てね。大きくなった子どもたちを想像したら、なんだかさびしくなってきたよお～。

閩動物公園 ☎252-1111 ☎255-7116

Tokyo 2020

関連情報



千葉市ゆかりのアスリートを紹介

パラアスリートの未知(道)

国枝慎吾選手

×

車いすテニス



グランドスラムでシングルス22回・ダブルス21回優勝、日本が誇る「世界の国枝」

競技を始めたきっかけ

9歳の時に脊髄腫瘍を患い、車いす生活になりました。そんな彼に、母は車いすテニスを勧め、それ以来、テニスのほか、バスケットボールな

どのさまざまな車いすスポーツに打ち込みました。その中で自然と身に着けたチェアワークは、今では「誰にも負けない」と自負する最大の武器となっています。

努力の天才

高校時代に初めて参加した海外遠征では、世界とのレベルの差を痛感したという国枝選手。その後、丸山弘道前コーチと二人三脚で世界への挑戦が始まりました。外国人選手のスピードとパワーに対応するため1日に1,000回もの素振りをこなすなど、ストイックに練習に取り組みました。「目標の大会の前には十分な練習をして準備を怠らないことが重要。」そんな有言実行の国枝選手を、丸山さんは「努力の天才」と評しています。

最強の王者へ

「2009年にプロ宣言をしたことで、自身の勝利が車いすの普及につながるなど、より競技への意識が高まった。」アテネ・北京のパラリンピックで金メダルを獲得した国枝選手の覚悟は、プロへの転向でさらに強くなります。その後出場したロンドン2012大会でも金メダル。ところが、前回のリオ2016大会では、けがの影響でまさかの銅メダル。今回は、表彰台の最も高い位置を目指し、車いすテニスの王者が東京に忘れ物を獲りに行きます。

閩オリンピック・パラリンピック調整課 ☎245-5296 ☎245-5299



応援の力

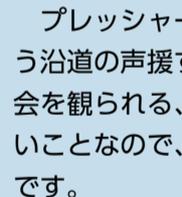
8月10日に、「2020に向けて千葉市民ができること」をテーマにパネルディスカッションが行われました。その中から、皆さんへ向けたパネリストのメッセージを紹介します。

川淵三郎さん(東京1964大会サッカー日本代表)



東京1964大会の開会式で大歓声で迎えられたことが人生で一番感動した瞬間でした。世界一のプレーを見て、子どもたちが夢と感動、希望を得ることが大事。出場国の選手を応援することは、国際交流にもつながります。

吉田義勝さん(東京1964大会レスリング金メダリスト)



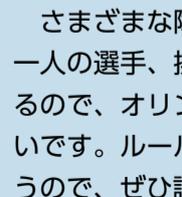
プレッシャーを強く感じていた中、練習に向かう沿道の声援すらもパワーの源でした。地元で大会を観られる、雰囲気を感じられるのは素晴らしいことなので、ぜひ競技会場に足を運んでほしいです。

岡本依子さん(シドニー2000大会テコンドー銅メダリスト)



テコンドーは開催国の選手が必ずメダルを取っていることもあり、自国の応援は選手にとって大きな力になるはず。パラテコンドーは東京2020大会からの正式競技なので、ぜひ一緒に声援を送ってほしいです。

安直樹さん(車いすフェンシング)



さまざまな障害者がいる中、パラアスリートも一人の選手、挑戦者として人生を懸けて戦っているので、オリンピックと同じ目線で応援してほしいです。ルールを知っていると見方が変わるので、ぜひ調べてみてください。

競技を観戦することはもちろん、会場周辺の雰囲気味わう、おもてなしをするなど、私たちの住む街で開催されるからこそできる応援があります。

皆さんの応援の力で、アスリートを後押ししましょう!

閩オリンピック・パラリンピック振興課

☎245-5739 ☎245-5299